

学校目標・経営方針	児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育課程における学習空白を補完する。そして、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	--

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の学力の向上を図るとともに、達成感や自己肯定感を育む。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	2 前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
			D	達成できなかった。(4割以下)		1	できていない。

自己評価				評価		
	本年度の重点目標			令5年度末評価(令和6年2月9日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の学力の向上を図るとともに、達成感や自己肯定感を育む。	合理的配慮を踏まえた個別の教育支援計画および個別の指導計画を作成し、適切な評価を行い、それらを活用しながら指導の改善を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	様々な面から実態を把握しながら、個別の指導計画を作成し、検討及び評価を学校全体で行うことができた。それを活用した指導を行い授業改善を行った。 個別の教育支援計画を保護者の同意を得て作成したが、その活用については課題が残る。前籍校に転籍する際に、活用したり、中3生は進学先に送り、支援の手立てとなるよう今後も活用していきたい。	A	個別の指導計画は、前籍校に渡すことも考え記入方法を工夫した。今後も妥当か検討し、記入方法を引き継いで提示していく。 個別の教育支援計画は来年度新たに県教委から出される「作成と活用の手引き」に従って作成するが、効果的な活用方法を検討していく。
		児童生徒の実態・教育環境に応じて、指導法やICT等教材を工夫することにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、達成感や自己肯定感を育む。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	ICT支援員を講師とし、様々なICT研修会を実施し、iPadを利用しながら授業を進めることができるようにした。また、その知識を使って、iPadを使用し、Forms、Padlet、kahoot、マイクラフトなどを学習に使い、興味をもって授業に取り組める生徒が増え、達成感を味わうことができた。今後もICT教材を使用できるよう、研修会を設定していく。		本年度は児童生徒数が少なく、個人への対応になりがちであった。校内研究において集団への実践をどのように積み上げていくのか、今後の課題である。
2	前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。	保護者や前籍校、病院、関係機関等と連携をさらに深め、児童生徒の教育の充実に努める。また、チーム学校として情報を共有し、支援に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	通院生の保護者とは登下校時に話をしたり、入院生についても電話等で連絡を取り、情報交換を行いながら指導に当たった。また、各担任が前籍校の教員と連絡を取り、スムーズに前籍校に戻れるよう工夫しながら試験登校等を行うことができた。生徒の情報は、朝礼や学部会で共通理解を図ることで、チームとして支援に当たることができた。	B	来年度も北病院の医師に対して旭分校の説明会を実施する予定である。また、その会に参加できない児童生徒の主治医に対して、個別に時間を確保し、短時間で簡単に説明会を設定していきたい。
		教育相談、訪問支援、学校見学、研修支援等を必要に応じて実施し、児童生徒の支援の充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	広報活動は、各地域の教育委員会や福祉課、適応指導教室など継続して実施し、旭分校のシステムや、できること、難しいこと等を発信してきた。 旭分校の対象についての問い合わせが小学校より複数あった。旭分校が進路選択の1つであると捉えられているが、旭分校を正しく理解していない学校や保護者も多く見られた。今後も広報活動を行っていきたい。		小学校から小6児童が中学校に進むことが難しいため、旭分校に入れないかという問い合わせがあった。小中の連携が円滑に進むよう、中学校のコーディネーターと顔合わせ等を行い、必要があればセンター的機能を活用してもらえるよう広報活動を行っていく。
3	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	基本的生活習慣の確立と自立心の育成に努めるとともに、人との関りを通してより良い人間関係の形成を図る。また、児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を実践し、その充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	養護教諭が一人ひとりの健康観察を行い、把握した個々の心身の健康状態や生活リズムを関係職員と共有し、指導に活かすことができた。体調不良者の症状を数値化することにより、生徒自身も教員も客観的な評価ができるようになった。 中3生は試験登校チャレンジ月間を11月に設け、前籍校へ戻ることを眼中に置き、生徒の意識を前籍校へ向け試験登校を始めることができた。	A	「社会性」について学部で職員にアンケートを取り、旭分校で大事にしている点を確認した。今後は学部で確認を継続し、ソーシャルスキルを高められるよう工夫していく。 校外学習の設定を各教科、ふれあい活動の中で行い、社会性を身に付けることができるように工夫していく。
4	多忙化の改善を図り、効率的な学校運営を図れるようにする。	児童生徒、保護者、関係機関等との対応における時間外勤務の振り替えを適切に行うことにより、職員の多忙化、多忙感の解消に努める。またホワイトボードを活用し、決まった定時退校日に帰れなかった職員は、別の日に定時に帰れるようにする。	教職員アンケートによる検証(満足度80%)	児童生徒、保護者、関係機関との対応において時間外勤務した場合、ファイルに記入し振り替えを確実に行うことができた。 ホワイトボードを活用し、定時退校日に帰れない職員は別日に帰れるようにした。また、それぞれ職員が多忙化改善に努め、早めに帰宅できる教員が増えた。	A	引き続き時間外勤務の振り替えを着実にを行い、職員の多忙感を減らしていきたい。来年度もホワイトボードを継続して活用し、定時退校日には全員が帰宅できるようにしたい。 コミュニケーションを活発に行い、教員同士が連携し、意欲的に働くことができる学校をつくっていきたい。

学校関係者評価	
実施日 (令和6年2月16日)	
	意見・要望等
4	・特別支援学校として症状や特性に合わせた目標や方針の設定ができていると思う。日頃の教育活動に加えて各種行事やイベントが設定されており、指導生徒の経験を増やす工夫がされている。また、教職員による丁寧な実態把握と手厚い教育・支援が行われている。 ・次年度に向けては重点目標の改定を行い、発展性の目標が必要である。 ・旭分校においては生徒数が少ない中で、同年代の集団による学び、成長の機会をどのように保障していくかが課題である。 ・学校評価アンケートの結果を見て分かるように、教育課程は好評を得ていると思う。また、児童生徒の習熟度に応じた丁寧な指導が行われている様子がうかがえる。 ・ICT活用と、従来の教授方法をバランスよくそれぞれの利点が生かされる授業づくりについて今後も検討していったほしい。 ・児童生徒の学校評価に関するアンケートで、「学校が楽しい」とみんなが答えている。生徒が学校を安心できる場として思っているようで良かった。
3	・旭分校は生徒の数が少なく大変な状況だと思う。ライト層の人があまり学校を利用しなくなり、難しい家庭の生徒が利用している。ライト層の生徒が戻ってくる可能性もあるが、戻ってこなければ旭分校は変わってくるのかもしれない。 ・北病院の生徒数が少ない理由として、北病院の医師が旭分校を知らなかったり、患者である生徒に旭分校を説明することが難しかったりしたことがあげられる。また、本年度は医師の入れ替えもあったため、来年度になれば少し変わってくるかもしれない。 ・北病院は難しい患者さんを学校にお願いしているが、学校での生徒の様子などを伝えることは難しい親が多いように思う。より工夫していかなければならない。 ・関係機関の担当者交代等で連携に苦慮されている様子が見られたが、状況に応じた関係構築に取り組み、連携の充実が促進されている様子がうかがえた。 ・在籍期間の長期化の背景にある家庭環境による登校の不安定さを有する事例に対する実績をもとに、センター的機能として近隣学校へ早期の介入も検討されたい。 ・継続支援があることで児童生徒とその保護者の安心に繋がっていると考えられる。学校の負担軽減と転籍先との連携が求められる。
4	・毎年いじめがなく、良い指導が行えていると思う。 ・進路指導においては、先例や先輩の姿の紹介が継続されることが望ましい。進路に対する不安の声も生徒から挙げられていたが、生徒自身が進路を選択できるよう、本人に対する丁寧な進路希望の聞き取りと十分な情報提供が課題である。 ・難しい生徒が増えている中、「少しでも学校に来られるように」と粘り強い対応が素晴らしいと思った。
4	・病院では多忙化改善に伴い早く帰るなど休んでいることを評価されない風潮があるが、学校では早く帰ることを良しとしているので、定時退校日等を使うなどして工夫していったほしい。また、教員はなかなか休憩する時間が取れないが、時間外に勤務した場合は振り替えを行うなど継続していったほしい。 ・学校紹介のスライドに校長先生が沢山写っていたが、率先して行事に参加していると感じた。また、定時退校日については、校長がホワイトボードを準備するなどし、教職員が早く帰れよう工夫している。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。